

## 新幹線車掌230名の大幅削減！ 業務委員会で提示 大効率化を許さないぞ！

「新幹線車内業務の見直しについて」の業務委員会が3月21日、行われました。内容は、新幹線乗務員を東京、名古屋、大阪の5運輸所で、運転士30名増、車掌230名削減というものです。差引き200名もの大幅要員削減です。運輸所毎の詳細な人数は明らかにしませんでした。

削減される車掌の活用方で会社は、削減される数は基準人員であるとした上で、増員される運転士への移行（兼務者対象）、休日出勤削減のための要員、J R 東海パッセンジャーへの出向（10～20名程度）、54歳原則出向と説明しました。運転士の増員は、単区間回送と単区間巡回の行路を作成することによるものです。会社は、休日出勤は大幅に削減できると主張しましたが、ゼロになるとは断言しませんでした。

本部は、冒頭「昨年12月21日に地方で提示した『新幹線車内業務の見直し』は本社・本部間でやるべきである」と主張しました。そして、「本来、休日出勤は要員を増やして無くすもの」「休日出勤がゼロにならないのに、54歳原則出向はおかしい」と主張しました。また、「要員削減は反対であり認めたわけではない」として撤回を要求しました。さらに、新幹線乗務員車内業務の見直しに対する団体交渉の申し入れを、会社が拒否したことに抗議しました。

この大幅要員削減は、リニア中央新幹線建設のための経費削減です。リニアのために、健康・ゆとり・安全が阻害されようとしているのです。J R 東海労は、職場の社員の声を第一に闘っていきます。